

な間違いがおきます。

まず、いざというとき國

民の協力が得られない。仮

に安保関連法案が成立し、

後方支援のために自衛隊が

日本の港から出発するとし

ましよう。その時に激しい

反対運動がおこれば、派遣

される自衛隊員は悲劇です。

国民の協力なき安全保障は、

結果的に日本の防衛力を削

ぐことになる。

加えて、集団的自衛権の

行使が全面解禁必至となる。

安倍首相は「解釈改憲」と

いう形で決めたが、本来は

憲法改正をしてから解禁す

るのが常道で、国民との議

論から逃げています。

祖父の岸信介さんはそん

なことはしなかつた。60年

安保闘争では、反対運動を

真正面から受け立ち、國

民を巻き込んだ大論争がお

きた。国会は連日十万人規

模のデモ隊に包囲された。

党内でも、岸内閣への批判

の声が次々にあがりました。

当時、私は学生でしたが、

激しい政治闘争が終わつた

後には、ある種のすがすが

悟が問われている。この状

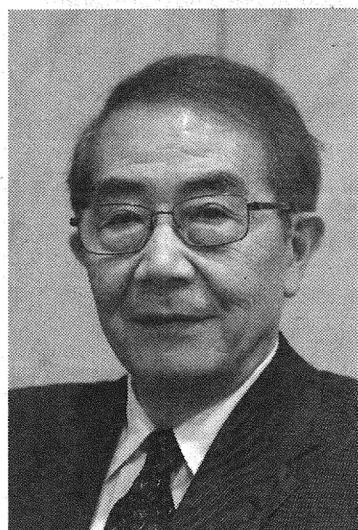
元経済企画庁長官

**田中秀征**

## 『眞情』に欠ける安倍政権 「岸信介は国民から逃げなかつた」

行動を起こすとは、自らの立場をかけること。いま、自民党的な政治家にはその覚悟が問われている。この状況で意見述べない政治家は、存在理由がない。

このまま安保関連法案が強行採決されれば、歴史的

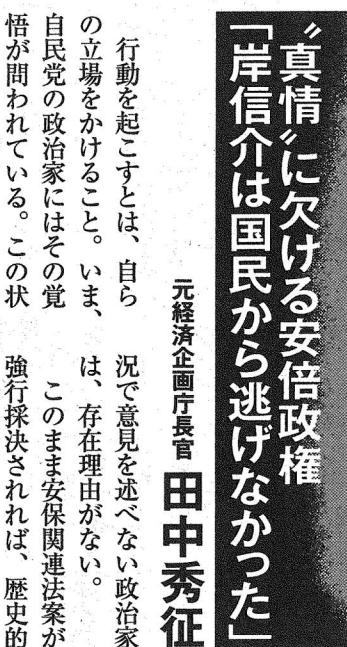


なか・しゅうせい 1940年生まれ。83年に自民党から出馬し、初当選。93年6月、新党さきがけを結成。96年に橋本政権で経済企画庁長官。現在、福山大学客員教授

クリントン米大統領（当時）との会談を終え、米国から帰国した翌朝、橋本さんと二人で話をする機会がありました。その時に橋本

米海兵隊員による少女暴行事件が起き、県民の怒りはピークに達していました。その翌年に首相に就任した橋本龍太郎さんは、米軍基地の整理・縮小に本気で取り組んでいました。

一方、安倍首相の目指すものは何か。それは米国との軍事的一体化に見える。これは日本は独立国ではなくなる。とても認めるわけにはいきません。自民党的な議員には、まず「独立の気概」を持つてほしい。それが、保守政治家の生命線ではないですか。



本誌・西岡千史、牧野めぐみ、古田真梨子／撮影・工藤隆太郎、大嶋千尋（写真部）